

演習問題 2.1 命題 3.2 を証明せよ。また準標準型へは行基本変形と (3) のタイプの列基本変形
で変形できることを示せ (線形解析 I 命題 1.1 を参考に)。

命題 1.1 の証明と同じ方法で、行基本変形と列基本変形 (3) のみを用いて、行列 A を行列

$$B = \begin{pmatrix} 1 & b_{12} & \cdots & b_{1r} & b_{1r+1} & \cdots & b_{1n} \\ 0 & 1 & \cdots & b_{2r} & b_{2r+1} & \cdots & b_{2n} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots & \vdots & \cdots & \vdots \\ 0 & 0 & \cdots & 1 & b_{rr+1} & \cdots & b_{rn} \\ 0 & 0 & \cdots & 0 & 0 & \cdots & 0 \\ \vdots & \vdots & & \vdots & \vdots & \cdots & \vdots \\ 0 & 0 & \cdots & 0 & 0 & \cdots & 0 \end{pmatrix}$$

に変形できる。

1 行目に r 行目の $-b_{1r}$ 倍を加えることにより、 $(1, r)$ 成分は 0 になる。2 行目に r 行目の $-b_{2r}$ 倍を加えることにより、 $(2, r)$ 成分は 0 になる。以下 3 行目から $r-1$ 行目までの各 i 行に r 行目の $-b_{ir}$ 倍を加えることにより、 (i, r) 成分は 0 になる。以上により r 列は (r, r) 成分以外は 0 になった。

上の操作を $r-1$ 行目を起点に行う。即ち、1 行目に $r-1$ 行目の $-b_{1r-1}$ 倍を加えることにより、 $(1, r-1)$ 成分は 0 になる。2 行目に $r-1$ 行目の $-b_{2r-1}$ 倍を加えることにより、 $(2, r-1)$ 成分は 0 になる。以下 3 行目から $r-2$ 行目までの各 i 行に $r-1$ 行目の $-b_{ir-1}$ 倍を加えることにより、 $(i, r-1)$ 成分は 0 になる。以上により $r-1$ 列は $(r-1, r-1)$ 成分以外は 0 になった。

上で述べた操作を $r-2, r-3, \dots, 2$ で行くと、行列 B は行列

$$C = \begin{pmatrix} 1 & 0 & \cdots & 0 & c_{1r+1} & \cdots & c_{1n} \\ 0 & 1 & \cdots & 0 & c_{2r+1} & \cdots & c_{2n} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots & \vdots & \cdots & \vdots \\ 0 & 0 & \cdots & 1 & c_{rr+1} & \cdots & c_{rn} \\ 0 & 0 & \cdots & 0 & 0 & \cdots & 0 \\ \vdots & \vdots & & \vdots & \vdots & \cdots & \vdots \\ 0 & 0 & \cdots & 0 & 0 & \cdots & 0 \end{pmatrix}$$

に変形される。これは準標準型なので、演習問題の後半部分は証明された。

C を標準型に直すには列基本変形を使う。1 列目の $-c_{1r+1}$ 倍を $r+1$ 列に加える。次に 2 列目の $-c_{2r+1}$ 倍を $r+1$ 列に加える。以下 3 列目から r 列まで各 i 列に対し、その $-c_{ir+1}$ 倍を $r+1$ 列に加える。この操作を実行すると $r+1$ 列の成分はすべて 0 となる。

上に述べた操作を $r+2, \dots, n$ 列に行うと、結果として標準型が得られる。

演習問題 2.2 次の行列に基本変形を行なって標準形または準標準形にせよ (線形解析 I 演習問題 1.3 と同じ問題)。

$$(1) \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 & 1 \\ 2 & 2 & 2 & 2 \\ 1 & 2 & 1 & 2 \\ 2 & 1 & 2 & 1 \end{pmatrix} \qquad (2) \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 \\ 6 & 7 & 8 & 9 & 10 \\ 11 & 12 & 13 & 14 & 15 \\ 16 & 17 & 18 & 19 & 20 \end{pmatrix}$$

$$(3) \begin{pmatrix} 0 & 0 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 0 & 2 \\ 0 & 1 & 0 & 3 \\ a & b & c & d \end{pmatrix} \quad \text{ただし, } a, b, c, d \text{ は自分の学生番号の下 4 桁。}$$

この問題も前期に解説しているので、それを参考のこと。

演習問題 2.3 命題 3.3 を証明せよ。また列基本変形の場合に変数間にどのような対応があるかも考えよ。

\tilde{A} に対応する連立 1 次方程式は次のようになっている。

$$(E) \begin{cases} a_{11}x_1 + a_{12}x_2 + \cdots + a_{1n}x_n = b_1 & \text{--- ①} \\ a_{21}x_1 + a_{22}x_2 + \cdots + a_{2n}x_n = b_2 & \text{--- ②} \\ \vdots & \vdots \\ a_{m1}x_1 + a_{m2}x_2 + \cdots + a_{mn}x_n = b_m & \text{--- ①①} \end{cases}$$

行基本変形 (1) を \tilde{A} の i 行に j 行の a 倍を加える操作とする。 \tilde{A}' に対応する連立 1 次方程式は i 番目の式を除くと上と全く同じである。 i 番目の式は $\textcircled{i} + a \times \textcircled{j}$ になっている。 $\mathbf{x} \in W(A, \mathbf{b})$ とすると、 \mathbf{x} は上の①から①①を満たしている。よって $\textcircled{i} + a \times \textcircled{j}$ も満たすので $\mathbf{x} \in W(A', \mathbf{b}')$ となる。逆に $\mathbf{x} \in W(A', \mathbf{b}')$ とすると、 \mathbf{x} は \textcircled{i} を除く①から①①までと、 $\textcircled{i} + a \times \textcircled{j}$ を満たしている。 $\textcircled{i} + a \times \textcircled{j}$ に \textcircled{j} の $-a$ を加えることにより \textcircled{i} も満たすことがわかるので、 $\mathbf{x} \in W(A, \mathbf{b})$ となる。

行基本変形 (2) を \tilde{A} の i 行を a ($a \neq 0$) 倍する操作とする。 \tilde{A}' に対応する連立 1 次方程式は i 番目の式を除くと上と全く同じであり、 i 番目の式は $a \times \textcircled{i}$ になっている。 $\mathbf{x} \in W(A, \mathbf{b})$ とすると、 \mathbf{x} は上の①から①①を満たしている。よって $a \times \textcircled{i}$ も満たすので $\mathbf{x} \in W(A', \mathbf{b}')$ となる。逆に $\mathbf{x} \in W(A', \mathbf{b}')$ とすると、 \mathbf{x} は \textcircled{i} を除く①から①①までと、 $a \times \textcircled{i}$ を満たしている。 $a \times \textcircled{i}$ を $\frac{1}{a}$ 倍することにより \textcircled{i} も満たすことがわかるので、 $\mathbf{x} \in W(A, \mathbf{b})$ となる。

行基本変形 (3) を \tilde{A} の i 行と j 行を入れ換える操作とする。 \tilde{A}' に対応する連立 1 次方程式は i 番目と j 番目の式を除くと上と全く同じであり、 i 番目の式は \textcircled{j} 、 j 番目の式は \textcircled{i} になっている。式の順序が異なるだけなので、 $W(A, \mathbf{b}) = W(A', \mathbf{b}')$ が成立している。

次に列基本変形を考える。連立 1 次方程式をベクトル表示すると (E) は

$$(E_v) \quad x_1 \mathbf{a}_1 + \cdots + x_i \mathbf{a}_i + \cdots + x_j \mathbf{a}_j + \cdots + x_n \mathbf{a}_n = \mathbf{b}$$

と書ける。ただし今 $i < j$ としている。 $i > j$ の場合も同様にできるので、ここでは $i < j$ として証明する。

列基本変形 (1) を \tilde{A} の i 列に j 列の a 倍を加える操作とする。 $\mathbf{x}' = \begin{pmatrix} x'_1 \\ \vdots \\ x'_n \end{pmatrix} \in W(A', \mathbf{b})$ とす

ると、 \mathbf{x}' は

$$(E'_v) \quad x'_1 \mathbf{a}_1 + \cdots + x'_i (\mathbf{a}_i + a \mathbf{a}_j) + \cdots + x'_j \mathbf{a}_j + \cdots + x'_n \mathbf{a}_n = \mathbf{b}$$

を満たしている。 $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix} \in W(A, \mathbf{b})$ に対し $\mathbf{x}' = \begin{pmatrix} x'_1 \\ \vdots \\ x'_n \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x_1 \\ \vdots \\ x_i \\ \vdots \\ x_j - ax_i \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix}$ とおくと

$$\begin{aligned} & x'_1 \mathbf{a}_1 + \cdots + x'_i (\mathbf{a}_i + a \mathbf{a}_j) + \cdots + x'_j \mathbf{a}_j + \cdots + x'_n \mathbf{a}_n \\ &= x_1 \mathbf{a}_1 + \cdots + x_i (\mathbf{a}_i + a \mathbf{a}_j) + \cdots + (x_j - ax_i) \mathbf{a}_j + \cdots + x_n \mathbf{a}_n \\ &= x_1 \mathbf{a}_1 + \cdots + x_i \mathbf{a}_i + \cdots + x_j \mathbf{a}_j + \cdots + x_n \mathbf{a}_n + ax_i \mathbf{a}_j - ax_i \mathbf{a}_j \\ &= x_1 \mathbf{a}_1 + \cdots + x_i \mathbf{a}_i + \cdots + x_j \mathbf{a}_j + \cdots + x_n \mathbf{a}_n = \mathbf{b} \end{aligned}$$

となるので $\mathbf{x}' \in W(A', \mathbf{b})$ となる。この \mathbf{x} から \mathbf{x}' への対応は $W(A, \mathbf{b})$ から $W(A', \mathbf{b})$ への一対一対応を与える。

列基本変形 (2) を \tilde{A} の i 列を a 倍する操作とする。 $\mathbf{x}' = \begin{pmatrix} x'_1 \\ \vdots \\ x'_n \end{pmatrix} \in W(A', \mathbf{b})$ とすると、 \mathbf{x}' は

$$(E'_v) \quad x'_1 \mathbf{a}_1 + \cdots + x'_i (a \mathbf{a}_i) + \cdots + x'_j \mathbf{a}_j + \cdots + x'_n \mathbf{a}_n = \mathbf{b}$$

を満たしている。 $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix} \in W(A, \mathbf{b})$ に対し $\mathbf{x}' = \begin{pmatrix} x'_1 \\ \vdots \\ x'_n \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x_1 \\ \vdots \\ \frac{1}{a} x_i \\ \vdots \\ x_j \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix}$ とおくと

$$\begin{aligned} & x'_1 \mathbf{a}_1 + \cdots + x'_i (a \mathbf{a}_i) + \cdots + x'_j \mathbf{a}_j + \cdots + x'_n \mathbf{a}_n \\ &= x_1 \mathbf{a}_1 + \cdots + \frac{1}{a} x_i (a \mathbf{a}_i) + \cdots + x_j \mathbf{a}_j + \cdots + x_n \mathbf{a}_n \\ &= x_1 \mathbf{a}_1 + \cdots + x_i \mathbf{a}_i + \cdots + x_j \mathbf{a}_j + \cdots + x_n \mathbf{a}_n = \mathbf{b} \end{aligned}$$

となるので $\mathbf{x}' \in W(A', \mathbf{b})$ となる。この \mathbf{x} から \mathbf{x}' への対応は $W(A, \mathbf{b})$ から $W(A', \mathbf{b})$ への一対一対応を与える。

列基本変形 (3) を \tilde{A} の i 列と j 列を入れ換える操作とする。 $\mathbf{x}' = \begin{pmatrix} x'_1 \\ \vdots \\ x'_n \end{pmatrix} \in W(A', \mathbf{b})$ とする

と、 \mathbf{x}' は

$$(E'_v) \quad x'_1 \mathbf{a}_1 + \cdots + x'_i \mathbf{a}_j + \cdots + x'_j \mathbf{a}_i + \cdots + x'_n \mathbf{a}_n = \mathbf{b}$$

を満たしている。 $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix} \in W(A, \mathbf{b})$ に対し $\mathbf{x}' = \begin{pmatrix} x'_1 \\ \vdots \\ x'_n \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x_1 \\ \vdots \\ x_j \\ \vdots \\ x_i \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix}$ とおくと

$$\begin{aligned} & x'_1 \mathbf{a}_1 + \cdots + x'_i \mathbf{a}_j + \cdots + x'_j \mathbf{a}_i + \cdots + x'_n \mathbf{a}_n \\ = & x_1 \mathbf{a}_1 + \cdots + x_j \mathbf{a}_j + \cdots + x_i \mathbf{a}_i + \cdots + x_n \mathbf{a}_n \\ = & x_1 \mathbf{a}_1 + \cdots + x_i \mathbf{a}_i + \cdots + x_j \mathbf{a}_j + \cdots + x_n \mathbf{a}_n = \mathbf{b} \end{aligned}$$

となるので $\mathbf{x}' \in W(A', \mathbf{b})$ となる。この \mathbf{x} から \mathbf{x}' への対応は $W(A, \mathbf{b})$ から $W(A', \mathbf{b})$ への一対一対応を与える。